



# 5～11歳への新型コロナワクチン接種の「意義」とは？

厚生労働省は1月21日、5～11歳の小児を対象としたファイザーの新型コロナワクチン「コミナティ筋注5～11歳用」を特例承認した。重症化しにくいとされる小児への新型コロナワクチン接種については、以前から多様な意見があるが、日本小児科学会が1月19日に公表した「5～11歳の健康な子どもへのワクチン接種は意義がある」とした見解が医療現場の一部で波紋を呼び、学会の姿勢を批判する声も上がっている。

## 有効成分量は成人用の3分の1

特例承認された「コミナティ筋注5～11歳用」は、成人用（12歳以上）の「コミナティ筋注」と比べ投与される有効成分量が3分の1（10μg）に減量されている。

ファイザーが海外で行った臨床試験では、5～11歳への10μgワクチン2回目接種後1カ月の免疫原性は、16～25歳への30μgワクチン2回目接種後1カ月と比較して1.04倍と同等であり、中和抗体価確認後に行われた解析で、2回目接種後7日以降の発症予防効果は90.7%だったと報告されている。

ただ、臨床試験はオミクロン株が出現する前の昨年6～9月頃に行われたものであり、オミクロン株に対する発症予防効果は大きく下がるとみられている。

薬事・食品衛生審議会医薬品第二部会は1月20日、これらのデータを基に審議し、特例承認することを了承。厚生労働省は速やかに承認手続きに入り、翌21日に正式に特例承認した。5～11歳用のファイ

ザーワクチンは海外では米国、英国、カナダ、フランス、ドイツなどで認可されており、日本のファイザーR&D合同会社の石橋太郎社長は21日、「日本でも承認されたことを嬉しく思う」とのコメントを発表した。

## 長尾医師、小児科学会の「考え方」を批判

厚生労働省は、ファイザーワクチンによる5～11歳の小児への接種を3月以降に開始する方針だ。しかし、重症化しにくいとされる5～11歳の小児に対しワクチン接種をどこまで進めるかについては医療現場にも多様な意見がある。

そうした中、日本小児科学会は1月19日、会内の予防接種・感染症対策委員会（多屋馨子委員長）がまとめた「5～11歳小児への新型コロナワクチン接種に対する考え方」を公表した。

医療現場の一部で波紋を呼んでいるのは、小児科学会の「考え方」のうち「5～11歳の健康な子どもへのワクチン接種は12歳以上の健康な子どもへのワクチン接種と同様に意義がある」とした部分。重症化リスクのある「基礎疾患のある子ども」だけでなく、重症化リスクが低い年齢層とされる5～11歳



「日本小児科学会の『意義あり』に異議あり」と批判する長尾和宏医師（「ニコニコ動画」1月21日投稿動画より）



コミナティ筋注5～11歳用（提供：ファイザー）

## 新型コロナワクチン「コミナティ筋注5～11歳用」の概要

製品名	コミナティ筋注5～11歳用
一般名	コロナウイルス修飾ウリジンRNAワクチン（SARS-CoV-2）
効能・効果	SARS-CoV-2による感染症の予防
用法・用量	日局生理食塩液1.3mLにて希釈。1回0.2mLを合計2回、通常、3週間の間隔で筋肉内に接種
用法・用量に関連する注意	接種間隔：1回目の接種から3週間を超えた場合には、できる限り速やかに2回目の接種を実施 接種回数：原則として、同一の効能・効果を持つ他のワクチンと混同することなく2回接種するよう注意
保存期間	-90～60℃で9カ月間、2～8℃で10週間

の健康な子どもへの接種も推奨すると取れる見解に戸惑いの声が上がっている。

長尾クリニック（尼崎）の長尾和宏院長は、ニコニコ動画に1月21日に投稿した動画の中で、小児科学会の「考え方」を取り上げ、「日本小児科学会の『意義あり』に異議あり」と批判。「子どもは何のために（ワクチンを）打つか。重症化予防のために打つのであって感染予防ではない。（健康な）子どもは重症化しない。『5～11歳へのワクチン接種は意義がある』とは何を考えているのか。小児科学会は反対してくれると思っていた」と学会の姿勢に疑問を投げかけた。

## 森内理事、メリット「圧倒的ではない」

オミクロン株感染拡大でワクチンの感染予防効果も期待できなくなる中、小児科学会は「意義がある」という言葉にどのようなメッセージを込めたのか。

担当理事の森内浩幸長崎大小児科教授は本誌の取材に対し、「意義がある」との見解について、必ずしも健康な子どもへの接種を「強く推奨するものではない」と明言。「基礎疾患のある子どもには強く推奨している。5～11歳の健康な子どもは、メリット・デメリットのバランスではメリットのほうが大きい、圧倒的にメリットが大きいということはない」との考えを示した。

基礎疾患のない子どもへの接種について地域のかかりつけ医が保護者から相談されたときの対応については、メリット（発症予防等）とデメリット（副反応等）を説明し、疑問点にもすべて答えた上で、それでも希望した場合に接種すべきとし、「十分納得した上で決めることが重要」と強調した。

日本医師会の中川俊男会長は1月20日の記者会見で、小児へのワクチン接種について「特に重症化リスクがある基礎疾患がある子どもたちに対して進めていく必要がある」とコメントした。5～11歳へのワクチン接種が始まる前に、接種に関わる医療従事者の間でワクチン接種の「意義」について誤解のないようにコンセンサスを形成し、共通理解を持って接種に臨むことが求められる。

## 5～11歳小児への新型コロナワクチン接種に対する考え方（要旨）

（1月19日 日本小児科学会予防接種・感染症対策委員会）

- ① 子どもをCOVID-19から守るためには、周囲の成人（子どもに関わる業務従事者等）への新型コロナワクチン接種が重要
- ② 基礎疾患のある子どもへのワクチン接種により、COVID-19の重症化を防ぐことが期待される
- ③ 5～11歳の健康な子どもへのワクチン接種は12歳以上の健康な子どもへのワクチン接種と同様に意義がある。メリット（発症予防等）とデメリット（副反応等）を本人と養育者が十分理解し、接種前・中・後にきめ細やかな対応が必要
- ④ 接種にあたっては、接種対象年齢による製剤（12歳以上用と5～11歳用のワクチンでは、製剤・希釈方法・接種量が異なる）の取り扱いに注意が必要

## 健康な子どもに強く推奨するものではない

森内浩幸

長崎大学医学部小児科教授/  
日本小児科学会理事



—小児科学会が出した「5～11歳の健康な子どもへの接種は意義がある」という考え方をどう解釈すればいいか。

ワクチンには、すべての人に強く勧める場合とリスクのある人に強く勧める場合がある。（5～11歳用コロナワクチンは）リスクのある人には強く推奨する、そうでない人にもメリットはあるが、強く推奨するには至らないという位置づけになる。基礎疾患のある子どもには強く推奨している。健康な子どもはメリット・デメリットのバランスではメリットのほうが大きい、圧倒的にメリットが大きいということはない。

—5～11歳は重症化リスクが低い年齢層でもある。

日本の子どもは米国の子どもの比べるとはるかに重症化リスクが低い。米国に多いCOVID-19感染による小児多系統炎症性症候群も日本は非常に少ない。米国の子どもに勧めるような勢いで勧めるものかどうか、ということもある。

—保護者から相談されたとき、かかりつけ医はどう対応すればいいか。

メリット、デメリット（痛みや熱などの副反応）をきちんと説明し、疑問点にも答えた上で、お決めいただくこと。同調圧力をかけて打たせる類いものでは全くない。感染を防ぐ効果について聞かれば、「接種しないよりは効果はあるが、劇的な効果はない」という説明をした上で、希望されれば、できるだけ不都合のない形で接種する。十分納得した上で決めることが重要だ。

18 創刊100周年記念特集 生活習慣病の100年

## 生活習慣病分野における、 この100年のトピック

島本和明

22 特集

## 厄介な花粉症の治療戦略 ——合併症と重症例の対応・コツと落とし穴

太田伸男

01 画像診断道場～実はこうだった

左肺血管影乏しい？横隔膜のテント状挙上を伴った  
縦隔偏位……診断は？  
何澤信礼 ほか

10 難治症例から学ぶ診療のエッセンス

糖尿病性ニューロパチーとの鑑別を要した  
高齢発症抗NF155抗体陽性CIDP  
寒川真 ほか

12 プライマリ・ケアの理論と実践

プライマリ・ケアにおける倫理的問題  
太田 浩

14 まとめてみました 最近気になること

5～11歳への新型コロナワクチン接種の「意義」とは？



03 プラタナス

07 胸部画像診断トレーニング

16 感染症発生动向調査

39 私の治療

50 プロからプロへ

70 NEWS DIGEST

72 学会・研究会・セミナー情報

74 ドクター求 NAVI / 掲示板

54 医療界を読み解く【識者の眼】

鈴木貞夫 オミクロン株と日本の第6波

和田耕治 どう被害を最少化するか

松村真司 医療DXは日常診療を中心に

坂巻弘之 薬価制度改革の残された論点

岡本悦司 終わりの見えない闘い

楠 隆 食物アレルギーは減っていくか？

浅香正博 胃・十二指腸潰瘍治療

宮坂信之 薬はリスク？

鈴木隆雄 アニマルウェルフェア

本田秀夫 精神科では『境界域』が難しい

田中章太郎 ザイタク医療